

1 日常の学習状況について

- (1)ほとんどの生徒が授業に落ち着いて臨むことができている。まじめに取り組み、自分の考えを深めようとしている。一方で、授業には参加をするが、班での話し合い活動等で積極性に欠ける生徒もいる。
- (2)発言が苦手な生徒も、小人数集団での活動を取り入れることで、他者の意見を受け入れながら、自分の考えを発信することができている。
- (3)漢字テストに取り組むことで、字を丁寧に書こうとしている生徒が増えている。しかし、部首や字形を意識して書くことができない生徒もいる。
- (4)人前に立って自分の考えを発表することに対して苦手意識をもっている生徒もいるが、おおむね相手に伝えることを意識して発表することができる。

2 期末考査等の結果を踏まえて

- (1)漢字の「読み」「書き」については、「読み」は正答率が高い。一方、「書き」は漢字テストにも出題された問題がありながらも正答率が低かった。
- (2)基本的な読解力が身についている生徒が多く、記号問題や書き抜き問題は正答率が高い。解答を本文に基づいて考えることができている。
- (3)記述問題については、まったく書けていない生徒はほとんどいなかった。授業での発問を中心に記述問題を作成していたため、授業での学びが定着しているといえる。
- (4)期末考査の振り返りをさせ、字の書き方、解答のしかた(問いに対する理由の答え方、問題の指示に当てはまる解答の書き方等)を確認した成果が2学期の中間考査で表れるよう、さらに学習の仕方について振り返る機会を設ける。

3 学力に関する状況

- (1)意欲的に授業に取り組む姿勢が整っている生徒と整っていない生徒との差が大きい。
- (2)ひらがなやカタカナ、漢字等、言語に関する知識の復習の必要がある。
- (3)自分の意見を全体で発表したり、表現したりする力をさらにのばしたい。
- (4)書くことを苦手としている生徒が一定数いる。周りの生徒にアドバイスをもらいながら粘り強く書こうとしている生徒もいれば、教員からの個別の支援が必要な生徒もいる。

4 教科の課題

- (1)学習面
 - ・語彙を増やす学習が不足している。
 - ・字を書く機会が減っているために、字を書くこと(ノートやワークシート等)を苦手としている生徒が多い。
 - ・家庭学習の習慣が身についておらず、次の授業までの課題ができていない生徒が一定

数いる。また、できていたとしても、文字の誤りや空欄をそのままに終わっている。

(2) 指導面

- ・発表の仕方、話し合い活動等、生徒の学習状況に応じて細かい支援が必要。
- ・提出物を出せない、出せていない生徒への個別の支援が必要。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・辞書を引く時間を確保し、辞書を引くことに慣れさせ、語彙力を磨く。
- ・漢字については、定期的に小テストを実施し、知識の定着を図る。
- ・知識を活用して考える課題に取り組みせるとともに、発表や作文等の表現する学習課題を充実させる。
- ・書き方に関する指導をさらに充実させるとともに、相互評価などの交流活動を積極的に設け、互いに推敲することで、より伝わりやすい書き方への理解を促進させる。
- ・発表が苦手な生徒に対しては、少人数集団での活動を取り入れること、発表のしかたを提示することで抵抗感をなくしていく。また、生徒同士の意見交換も含め、発言・発表の場を大切にし、筋道立てて説明する力を養う。
- ・ICT 機器を活用し、個別の学びを広げたり深めたりすると共に協働的な学びを展開する。

(2) 指導面

- ・毎時間の目標や内容を明確にすることで見通しをもたせ、生徒が理解を深められるよう、的確な発問になるよう工夫する。
- ・生徒同士で確認したり教え合ったりできるような、学び合いの時間を活動に取り入れていく。そこから、自分の考えをさらに広げられるよう指導する。
- ・ICT 機器の効果的な使い方を考え、実践する。
- ・定期的に漢字テストを行い、努力の成果を実感させると共に、定着を図る。また、間違った漢字の見直しをすることで確実に基礎力を養う。

6 成果の確認

(1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較

(2) 中間考査、期末考査の結果の考察

(3) 授業で使用したノートやワークシート、生徒の授業評価の考察

1 日常の学習状況について

- (1) 目の前の課題に前向き取り組み、目標に向かって知識・技能を身に付けることに意欲的である。また、多くの生徒は、学んだことを使い、考え、表現しようと努力している。
- (2) 暗唱、漢字の小テスト、ワーク、ノートなどに意欲的に取り組む生徒が多いが、ノートに書くということも苦手な生徒がいる。
- (3) 予習にあたる家庭学習の課題への取組が不十分なため、授業中の主体的な取組が滞りがちな生徒がいる。

2 期末考査等の結果を踏まえて

- (1) ワークシートや提出物に真面目に取り組むため、既習事項の問いに対する正答率は大変高いが、切り口を変えた問いへの正答率は低い。
- (2) 知っていることをどう使っていくかという思考力・判断力・表現力を向上させる学習をより充実させる必要がある。
- (3) 1年次でのテストの振り返りを通し、「解答の仕方（理由の答え方、問題の指示に当てはまる解答の書き方など）」を確認した成果が2年生で表れている。さらに家庭学習、授業への取り組み方について振り返る機会（テスト直し）を作り、基本的な学習方法が身につけられるようにする。

3 学力に関する状況

授業で提示した課題については多くの生徒が真面目に取り組み、成果も出ている。学習したことをノートにまとめる基本的な「書く力」が身についてきている。漢字の小テストに向けてもよく努力する生徒が増え、発表力も向上した。一方、あらかじめ範囲の指定されている漢字テストの準備ができない生徒、定期テストの「問題量の多さに対応できていない生徒もいる。日々の授業でノートに「聞き取ったことをメモさせる」、メリハリのある明確な発問など工夫し、注意や意欲を喚起する必要がある。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ・文章を正確に読み取る力や、記述されていない内容を想像する力、自分の意見を的確に表現する力が不足している。
 - ・語彙を増やす学習が不足している。
 - ・家庭学習の習慣が身についていないため、予習ができていない生徒は、どうしても授業中にノートを取り切れていない。
- (2) 指導面
 - ・個々の達成感、成就感の得られる授業、常に全員が授業に参加できる学習の場として

まだ充分とは言えない。

- ・提出物を出せない生徒への個別指導が十分ではない。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・本気でやりたい、夢中になる課題や発問に取り組ませる。
- ・毎時間確実に表示している「学習の目標」を各々きちんと把握させた上で授業に取り組ませる。
- ・毎日の漢字の小テスト、またそれに向けての漢字練習、暗唱の学習に取り組ませる。特に学習意欲のもてない生徒が達成感を味わえるよう、家庭学習の方法を具体的に伝え、励ます。
- ・「書く」ことに関して設定された様々な課題に段階的に挑戦させる。
- ・時間はかかるが、語彙を増やす学習を丁寧に継続する。

(2) 指導面

- ・本気でやりたい、夢中になる課題や発問を工夫する。
- ・学習目標（めあて）は常に掲示しているが、これまで以上に生徒に自覚させる。
- ・学びの足跡を残すために、ノートづくりについて改めて確認する。特に授業中にノートをとることもままならない生徒に対して、ポイントを書き込んだ掲示物を準備し、学習の跡がわかるノート作りを徹底するなど個別指導に力を入れる。
- ・授業の最初に漢字及び言語事項に関する練習を実施したり、簡単な暗唱に取り組ませたりする学習を今後も継続し、努力の成果を実感させ、自信を付けさせる。
- ・提出物を早めに提示し、進捗状況を確認する。誤りのあった提出物の評価を返却し、やり直しができるようにする。（学習掲示板の活用）
- ・文学的な文章に多く触れさせ、豊かな表現力を身につけられるようにする。
- ・論理的な文章を書く力を高めるために数多くの百字から二百字の作文に取り組ませ、意欲を喚起する魅力的な表現活動を取り入れる。
- ・社会・世界に関心をもち、新聞やニュース等から情報を得て、自らの世界を広げさせる。（1分間スピーチの開始）
- ・少人数での学習を効果的に取り入れ、書いた韻文や文章を互いに読み合うこと、考えたことを発表し合うこと、課題について話し合うこと、互いに助け合いながらより良いものを協力して作り上げることを通して、主体的に学び合い、豊かな考えを得る喜びを味わわせる。
- ・見通し、調整していく力を育てるために、単元ごとの個人評価、相互評価を行わせ、自己の変容（成長）と次への目標を確認することを継続していく。
- ・1年に続き、定期テストの振り返り（テスト直し）を、日ごろの授業や家庭学習編の取組も含めてきちんと行わせる。

6 成果の確認

- ・観点別評価の学期ごとの比較、改善に向けての考察を行う。
- ・定期考査や小テストなどの結果から改善に向けての考察を行う。
- ・生徒の授業評価から、指導方法の改善を行う。

令和7年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

国語科 3年生

1 日常の学習状況について

- ・真面目に授業に取り組む生徒が多く、おおむね落ち着いた学習態度である。一方で発言する生徒が固定化しており、積極性に欠ける面もある。
- ・タブレット学習が多くなっている等の影響からか、字を書くスピードが遅く、漢字を書けない生徒が一定数いる。
- ・「知識・技能」については、定期的に漢字の小テストに取り組むことで、定着を図っているが、字を丁寧に書く意識が足りない生徒が多くみられる。文法に対して苦手意識を持つ生徒が多い。
- ・「思考力・判断力・表現力」における『話すこと・聞くこと』については、人前に立って自分の考えを発表したり、表現したりすることが得意な生徒が多いと感じる。『書くこと』については、苦手意識をもっている生徒もあり、作文等で表現することに対して抵抗感を示す生徒もいる。『読むこと』については基本的な学力が身についているものの、読解した内容に対して疑問を呈したり自分の意見をもったりすることを苦手としている生徒が多い。

2 期末考査等の結果を踏まえて

- ・漢字は多くの生徒が反復練習を行っていることが分かった。文法・知識の定着に差がある。
- ・「記述力」は、字数制限のある問いに対して、自分なりの言葉でまとめようと試行錯誤する様子が見られた。一方で、語彙力や表現力などが不足している部分がある。また、マスの使い方や問いに正対した文末表現等、基礎的な知識の復習が必要な生徒が一定数見られた。
- ・「読解力」は、記号問題や書き抜き問題は正答率が高く、文章中から必要な部分を読む力が身についていることが分かった。

3 学力に関する状況

- 全国学力調査の結果から、全国より9.7ポイント上回っていた。
- ・登場人物の設定の仕方を捉える力、表現の効果について考える力、目的に応じて情報を整理する力、相手の反応を踏まえながら自分の表現を工夫する力は多くの生徒に身についている。
- ・読み手の立場に立って文章を整える力は身についているが、記述式の問題形式について、苦手意識を持っている生徒が多いことが分かった。
- ・自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書く力、資料や機器を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力を意識して学習に取り組ませる必要がある。

4 教科の指導上の課題（授業評価アンケートより） ◎そう思う ○ややそう思う

- ①授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。(◎81.7%○16.4% 計98.1%)
- ②授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。(◎79.9%○17.8% 計97.7%)
- ③授業内容や指示・説明がわかりやすい。(◎72.1%○22.8% 計94.9%)
- ④意欲的に取り組めるような授業になっている。(◎66.7%○30.1% 計96.8%)
- ⑤板書やプリント、ICT機器の活用等が工夫され、理解が深まる。(◎68.9%○27.4% 計96.3%)
 - (1) ③の結果から、すべての生徒にとってわかりやすい授業内容や指示・説明ではないことがわかる。
 - (2) ④の結果から、意欲的に取り組めていない生徒がおり、学習に対する消極的な姿勢につながっていると考えられる。
 - (3) ⑤の結果から、ICT機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことがわかる。

5 授業改善について

- (1) 発問や指示について生徒の反応を予想しながら教材研究をするとともに、板書・プリント等の教具でも生徒自身が視覚的に指示を確認できる環境を整える。
- (2) 生徒間の意見交流や体験的な活動を取り入れ、生徒の興味・関心の向上につなげる。
- (3) 生徒の思考の補助や知識の反復等、目的をもってタブレットを授業内で活用する。

6 成果の確認

- (1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較
- (2) 中間考査、期末考査の結果の考察
- (3) 生徒の活動の様子や、授業で使用したノート・ワークシート、授業評価等の考察